



TITLE:

米價ノ騰落ト其調節ニ就テ(一)

AUTHOR(S):

戸田, 海市

---

CITATION:

戸田, 海市. 米價ノ騰落ト其調節ニ就テ(一). 經濟論叢 1915, 1(6): 633-652

ISSUE DATE:

1915

URL:

<https://doi.org/10.14989/126935>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

# 叢論濟經

號六第

卷一第

## 論說

●米價ノ騰落ト其調節ニ就テ(二)

●穀物倉庫論

●貧富問題(三)(完)

## 雜錄

●大藏省證券ニ就テ尾上學士ニ應フ

●南洋新占領地研究ノ二まゝしやる群島研究

●保險學說ノ發展(二)

## 雜報

●經濟的進化ト人口法則(二)(完)

●最近ノ金融問題(二)

●廣告稅ト廣告官營

●戰爭ト英國ノ貿易

●社會政策學會第九回大會記事

●京都法學會大會記事

法學博士 戸田 海市

助教授 河田 嗣郎

法學博士 田島 錦治

法學博士 小川 郷太郎

助教授 山本 美越乃

法學士 小島 昌太郎

講師 米田 庄太郎

谷村 一太郎

法學博士 神戶 正雄

助教授 河田 嗣郎

講師 高田 保馬

# 經濟論叢 第一卷 第六號

## 論說

### 米價ノ騰落ト其調節ニ就テ (二)

法學博士 戸田 海 市

本問題ニ付テハ既ニ屢々見ナ公ケニシ、特ニ國民經濟雜誌第十三卷第六號米價ノ調節、京都法學會雜誌第十卷第二號「我國米價ノ極端ナル動搖」同第三號「ぐれこり」きんぐノ法則、同第五號「現行米價調節策」ノ諸論文ニ於テ稍纏ツタ意見ヲ公ケニシタ。本篇ノ目的ハ此問題ニ付キ更ニ秩序的ニ研究セントスルノデハナク、上述諸論文ニ多少ノ補足ヲ試ミ且ツ今回政府ノ米價調節調査會ニ提出セシ參考案ニ付テ概評ヲ試ントスルノデアアル

#### 一

米價ノ騰落ニハ二種アル。一ハ十月ヨリ翌年九月ニ亘ルモノト見テ可ナル「收穫年度内ニ於ケル騰落」デアリ、他ハ異レル收穫年度ノ間ニ現ハレル騰落デアアル。先ツ前者ニ付テ見ルニ、十二月乃至一月ニ於テ最低ヲ示シ、八九兩月ニ於テ最高ヲ示ス

年カ最モ多ク、又此最高最低ノ差ハ年ニ由テ著シク異レルモ、多クノ場合ニハ二圓内外デアル。此二圓ノ高低ハ決シテ小ナリト云フヲ得ナイガ、併シ乍ラ一年ヲ通シテ米價ヲ一定不動ナラシムルノ不能ナルハ勿論、近キ將來ニ於テ著シク其高低ノ幅サヲ減少スルコトモ困難デアル。米ヲ保存シテ次ノ收穫期マテノ需用ヲ充タサントスレハ相當ノ保存費即チ消極的生産費ヲ必要トシ、從ツテ同一ノ米モ時日ノ經過スルニ從ヒ其生産費カ大トナル故其價格モ之ニ應シテ漸次ニ騰貴セリハナラス。此消極的生産費ノ點ヨリ見レハ米價ハ一收穫年度ノ始メニ於テ最低ク、其終リニ至リテ最高カルヘキ筈デアルガ、實際ニハ米ノ消費カ一年ヲ通シテ略ホ平均ニ分配セラルルニ反シ、農民ノ米ヲ市場ニ供給スルコトハ必シモ平均スルヲ得ナイ事情カアリ、市場ノ掛引ニモ種々ノ變化カアリ、又年度ノ終リニ近ツクニ從フテ次ノ收穫ノ豊凶ノ豫想モ米價ニ大ナル影響ヲ及ボス故、米價ノ最高最低ノ現ハレル時期ト其幅サトハ個々ノ場合ニ於テ差異ヲ生スル。併シ大體ヨリ見テ一年度内ノ米價ノ高低カ其消極的生産費ノ大サニ一致スルノ傾向ヲ有スルコトハ爭ハレナイ。米ノ保存費ハ三種ノ項目ヨリ成立スル。第一ハ米ノ保存ト云ヘル特種ノ貯蓄ニ對スル利息デアル。市場ニ賣却スヘキ米ヲ直チニ賣却セスシテ之ヲ保存スル場合、即

チ後日起リ來ルヘキ他人ノ慾望ヲ満足スル爲メ、米ノ保存ト云ヘル事業ニ對シテ資本ヲ固定スル場合ニハ、其保存期間ノ長短ニ應シテ相當ノ利息ヲ要求スルコトハ賭易キ理テアルガ、農民カ自家消費ノ爲メニ米ヲ保存スル場合ニモ矢張り利息ハ賠償セラレルノデアル。即チ目前ニ起ル慾望ニ應スル爲メ年中絶ヘス少量ツツ生産シ得ル貨物ト異ツテ、米ハ一年中ノ慾望ニ必要ナ量ヲ一度ニ生産シ置クコトヲ要スル故初メヨリ其生産費ノ中ニ資本固定ノ苦痛ヲ計上シテアル。第二ハ之ヲ保存スルニ必要ナル設備特ニ倉庫ノ建物及其敷地ノ費用ト貯藏米ニ對スル手入レノ費用デアル。第三ハ貯藏米ニ對シテ手入レヲ爲スモ尙ホ避クルコトヲ得サル減量及變質ヨリ起ル損失デアル。今マ米穀保存事業ヲ一層合理的ニ行ヒ、特ニ之ヲ公設又ハ私設ノ設備完全ナル大規模ノ倉庫ニ納メ、進歩セル保存技術ヲ加ヘルナラバ、之ニ由テ第三ノ費用ヲ著シク減シ得ルコトハ明カデアリ、第二ノ費用モ幾分か減少スルコトハ出來ルガ、倉庫ノ敷地及建物ニ資本ヲ固定スルノ費用ハ、一國ノ資本カ増加シテ利息カ低落セサル限りハ、著シク之ヲ減スルコトハ不能デアル。今日米ノ保存費トシテ最モ重キヲ爲スモノハ第一ノモノデアツテ、往々保存費全體ノ半バニ達スル故、近キ將來ニ著シク我國ノ利息カ低落シ得ナイトスレバ、假令ヘ

米穀保存ヲ合理的ニ行フコトトスルモ、全體ノ保存費ヲ著シク減スルヲ得ナイ、從ツテ又一年內ノ米價ノ高低ノ幅ヲ著シク減シテ殆ント之ヲ均一ナラシムルコトモ望マレナイ。只タ茲ニ注意スヘキハ今日米田ノ略ホ半バハ小作ニ附セラレ、其小作料ハ一般ニ實物拂デアツテ、米ノ保存ノ大ナル部分ハ此小作米ヲ收納シテ之ヲ賣リ急クヲ要セサル地主ノ手ニ由テ行ハレ、且ツ其保存ノ場所モ通例地主自身ノ倉庫デアルガ、彼等ハ金利倉敷料其他ノ消極的生產費ヲ精細ニ計算セズシテ寧ロ甚タ之ヲ輕視スルノ傾向カアリ、其結果一年度內ニ於ケル米價ノ最高最低ノ差モ從來二圓内外ニ止マルコトカ多ガツタノデアアル。然ルニ若シ米田小作料ノ支拂方法カ金納ニ變シ、此支拂ヲ爲スノ必要ヨリ產米ノ大ナル部分カ收穫後速カニ市場ニ賣出サレ、從ツテ米ノ保存事業カ其保存費ヲ精細ニ計算スルノ能力ト必要トヲ有スル商人ノ手ニ由テ行ハルルコト増加スルニ至レハ、之カ爲メ保存事業ハ大ニ進歩スルテアラウガ、併シ一年度內ノ米價ノ高低ノ幅カ今日ヨリ減スルコトハ困難デアリ、寧ロ幾分カ増大スルコトナルデアラウ。

米ノ保存者カ農民タルト商人タルト公共團體タルトヲ問ス、之ヲ保存スルニハ必ラス保存費ヲ要スルカ故ニ、一年度ヲ通シテ米價ヲ一定不動ナラシムル政策ヲ行

フコトハ殆ント不能デアルト同時ニ、國民經濟上利益ト云フヲ得ナイ。米ヲ購買消費スル者ハ貧富ヲ問ハス米價カ一年ヲ通シテ均一ナルコトヲ利益トシ、特ニ此種ノ消費者ノ中ニハ米ヲ購買スルノ苦痛ヲ強ク感スル所ノ下層民カ多數ヲ占メテ居ルコトハ勿論デアルガ、社會政策上ノ理由ヨリ今日直チニ米穀保存費ヲ政府ニ於テ負擔シ、之ニ由テ一年度ヲ通シ米價ヲ一定不動ナラシメントスルコトハ不當デアル。若シ政府ニシテ市場ニ賣買セラルル米ニ付テ此政策ヲ行フトキハ、一面農民ノ自家消費ノ米ニ對シテモ同様ノ利益ヲ與フルコトヲ必要トスル。何トナレハ前ニ述ヘシ如ク農民ノ自用米ニ付テモ矢張り其保存費ノ負擔ハ存在スル。特ニ此農民ノ大多數ハ貧困ナ下層民デアツテ、食物ヲ得ルカ爲メニ其能力ノ大部分ヲ費スコトヲ要スル點ニ於テハ、米ヲ購買消費スル下層民ト異ル所ハナイ。故ニ公平ヲ保タントスレハ農民ノ自用米ニ對シテモ米ノ保存費ヲ政府カ負擔スルコトヲ要スルガ、之ヲ行フニハ國庫ニ莫大ノ負擔ヲ生スルハ勿論、適切ナル保存費賠償ノ方法ヲ發見スルコトモ殆ント不能デアル。又政府ニシテ一面ニ米價ヲ強テ一定不動ニ保タントシ、他面ニハ便宜上米ノ保存費ヲ一切農民ニ負擔セシムルコトトセン乎、農民ニシテ一般ニ資力ノ豐富ナル大企業者デアルナラハ、農業ニ投下セル資本

ト勞働トノ轉用配置ノ行フテ、結局市場ニ賣出ス米ヲ一般ニ騰貴セシムルコトニ由リ、假令ヘ損失ノ全部ヲ免ルルコトハ不能トシテモ、其大ナル部分ヲ消費者ニ轉嫁スルニ至ルデアラウガ、今日ノ農民ノ大多數ハ貧困デアルカラ損失ノ大部分ヲ自カラ負擔シテ益々貧困ニ陥ラテハナラヌ。一年ヲ通シテ米價ノ成ルヘク高低セサルコトハ希望スヘキデアルガ、此目的ヲ達スル爲メニハ公私何人ノ手ニ由テ保存ヲ行フヲ問ハス、之ニ必要ナル費用ノ減少ヲ圖ルコトカ根本デアリ、之ニ亞テハ保存費ニ一致セサル米價ノ動搖ヲ生セシメサルカ如ク、米穀取引ニ關係スル諸機關ノ作用ヲ發達セシムルコトヲ必要トスル

今回政府カ米價調節調査會ニ提出セル四個ノ參考案ハ何レモ米價ノ大サニ直接ニ干涉シ、成ルヘク之ヲ拾四圓以上拾八圓以内ニ止マラシメントスルモノデアアルガ、米ノ供給不足ノ甚シキ場合ニ拾八圓以上トナルコトヲ防クノ方法ナク、少クトモ政府案ニハ適切ナ方法ヲ設ケテナイノニ反シ、供給過多ノ爲メ拾四圓以下トナルコトヲ防クノハ、騰貴ノ場合ニ比シテ割合ニ容易ナ事柄デアリ、又政府案モ此點ニ最モ力ヲ盡シテ居ルガ、如何ナル場合ニモ米價ヲ十四圓以下トナラシメサル丈ケニ努力スルトキハ、供給過大ノ年ニハ此努力ハ自カラ一年ヲ通ジテ米價ヲ十四



圓均一ニ保タントスルノ意味トナル。此事ハ第四ノ米價補給案ニ於テ最モ著シク現ハレテ居テ、同案ハ一見スレハ特ニ一年度内ノ米價ヲ均一ニ十四圓ナラシムル目的ヲ有スルカノ如キ體裁ヲ備ヘテ居ルガ、併シ恐ラク政府モ此ノ如キ目的ヲ有スルノテハアルマイ、又同案ハ此目的ヲ達スル爲メニハ不完全テアル。今此點ニ關スル同案第一條ヲ見ルニ左ノ如クテアル

米價(東京正米市場ニ於ケル中米相場、以下同シ)一石十四圓(假定)ナドルトキハ指定倉庫ニ米ヲ寄託セル者ハ政府ト米價補給契約ヲ爲スコトヲ得

米價補給契約期間ハ次ノ十月末限リトス

十月中ノ平均米價カ左ニ掲グル金額ニ達セサルトキハ政府ハ十月末現在ノ補給契約米ニ對シ其不足額ヲ補給ス

前年十月中ニ契約シタル分ニ對シテハ	一石十五圓二十錢
前年十一月中ニ契約シタル分ニ對シテハ	一石十五圓十錢
前年十二月中ニ契約シタル分ニ對シテハ	一石十五圓
一月中ニ契約シタル分ニ對シテハ	一石十四圓九十錢
二月中ニ契約シタル分ニ對シテハ	一石十四圓八十錢
三月中ニ契約シタル分ニ對シテハ	一石十四圓七十錢
四月中ニ契約シタル分ニ對シテハ	一石十四圓六十錢
五月中ニ契約シタル分ニ對シテハ	一石十四圓五十錢

六月中ニ契約シタル分ニ對シテハ一石十四圓四十錢

七月中ニ契約シタル分ニ對シテハ一石十四圓三十錢

八月中ニ契約シタル分ニ對シテハ一石十四圓二十錢

九月中ニ契約シタル分ニ對シテハ一石十四圓十錢

補給契約ヲ爲シタ者ハ隨時補給契約ヲ解除スルコトヲ得

四案ヲ通シテ米價ノ最低ヲ拾四圓以下ニ落サシメサルコトヲ目的トスルガ、此十四圓ハ普通ノ生産費ヲ償フニ必要ナリト認メタモノデアル。既ニ米價ヲ生産費以下ニ下ラシメサルコトヲ目的トスル以上ハ、保存月數ノ加ハルニ從フテ各月ノ米價ノ最低ヲハ、十月ノ十四圓ニ對シテ夫レマデニ必要トセル保存費即チ消極的生費產ヲ加算シタル大サトナラシムルカ如ク努力セネバナラス。然ルニ各案就中第四案ニ於テ政府カ一年度内ノ何レノ月ニモ十四圓ヲ下ラシメサル丈ケノ努力ヲ爲スニ止マルコトハ不徹底デアツテ、眞面目ナ生産費價格維持ノ精神カ現ハレテ居ナイ。勿論一年度ノ初メニ方リ速カニ政府ト補給契約ヲ結ンテ米ヲ保存スル者ハ保存月數ノ大トナルニ從ヒ高キ價ヲ保證セラルルコトトナルノテアルガ、併シ米ノ所有者カ盡ク此ノ如ク迅速ニ契約ヲ結フコトハ種々ノ事情ニ由テ困難デアリ、又其ノ不能ナル場合モ少ナクナイ。其後ニ至ツテ補給契約ヲ結ハントスル者モ、

夫レマテノ間ニ何等ノ保存費ヲ要セザリシ米ヲ所有スル譯テナイコトハ無論デアル、故ニ後レテ契約セントスル者ニ對シテモ最初ニ契約セシ者ト同様ノ高キ價ヲ保證スルコトヲ適當トスル。斯クスレハ急キテ契約スルノ必要ナキコトナル故、其結果人民自カラ米ヲ保存スルコトヲ獎勵シテ政府ハ補給契約ノ手數ヤ負擔ヲ減少スル。

米價補給案ヲ一見シテ其目的カ米ノ供給ノ著シク過剩ナ年ニハ一年ヲ通シテ米價ヲ均一ニ十四圓ナラシメントスルモノト解スルハ不當デアリ、又此目的ヲ達スルカ爲メニハ本案ハ甚タ不備デアル、第一ニ米ノ保存費ノ多少ヲ問ハス一年度内ノ米價ヲ均一ナラシムルコトハ、消費者ノ利益ノ爲メニ行ハルルモノト見テ意義ヲ有スルコトデアルガ、消費者カ米價ノ不均一ナルカ爲メニ苦痛ヲ感スルコト多キハ米價カ十四圓ヨリモ高キ年ニ於テデアルニ反シ、本案ハ米價ノ最モ低クシテ消費者カ多少ノ米價動搖ヲ意トセサルカ如キ年ニ限り適用セラルルモノデアル。又各參考案ヲ通シテ一年度内ニ起ル所ノ米價動搖ノ普通ノ幅ヨリモ更ニ大ナル十四圓ヨリ十八圓マテノ範圍ニ於テハ、米價ノ自然ノ動搖ニ對シ何等直接ノ干渉ヲ加ヘサル主義ヲ採ツテ居ル。故ニ本案ヲ以テ米價均一ノ目的ヲ有スルモノト

解釋スルハ矛盾テアル。第二ニ著シキ豐作ノ爲メ米價下落シテ端境期ニ至ルモ多ク十五圓以上ニ出ツルコト難カルヘシト考ヘラルル年ニ於テハ、人々收穫年度ノ初メニ於テ米ノ大部分ヲ補給契約ニ附スルコトトナル故米價ハ時日ノ經過ニ從フテ漸々十四圓以上ニ騰貴スヘク、又此ノ如ク騰貴セサレハ何人モ補給契約ヲ解除シテ米ヲ市場ニ供給シナイコトトナル。故ニ若シ米價ヲ始終均一ニ保タントスルナラハ、補給契約ニ對シテ特別ノ制限ヲ加ヘルカ又ハ政府カ米ヲ買入レチ市場ノ狀況ニ應シ之ヲ十四圓ニ賣出サテハナラヌノテアルガ本案ニハ無論此ノ如キ規定ハ設ケテナイ。要スルニ本案ハ生産費價格ヲ維持スルノ目的ヲ有シテ、而モ甚タ不徹底ナモノトナツタノデアル。

一年度ノ各月ヲ通シテ米價カ十四圓ヲ下ルコトナク、又十八圓以上ニ達セサルカ如キ年ニ於テハ、政府案ハ何レモ直接ニ米價ニ干涉シナイガ、米ノ供給ノ過小ナル爲メ米價ノ十八圓以上トナラントスル年ニ於テハ、矢張り十四圓以下トナラントスル年ニ於ケルト同シク、一年度ノ各月ヲ通シテ均一ヲ強ユルコトトナリ、米穀保存ニ必要ナル生産費ノ關係ヲ無視シタ不自然ナ政策トナル。故ニ強テ之ヲ斷行セントスレハ大ナル不都合ヲ生スルコトハ、以上ノ所論ニ照シテ自カラ明カテアル。

若シ一年度ノ初メニ於ケル米價ヲ十八圓ニ止マラシムル目的ナラハ、其後ノ各月ノ米價カ順次之ニ保存費ヲ加算シタ大サニ達スルコトヲ認ムヘキテアリ、又一年度ノ終リニ於ケル米價ヲ十八圓ニ止マラシムル目的ナラバ、其以前ノ各月ノ米價ヲハ十八圓ヨリ相當保存費ヲ差引イタ大サニ制限スルコトヲ正當トスル、固ヨリ此ノ如キ規定ヲ設ケテ之ヲ實行スルコトハ甚タ煩ハシキ事柄デハアルガ、苟クモ直接ニ米價ニ干涉スル主義ヲ採ル以上ハ己ムヲ得サル所テアル

一年度内ニ於ケル米價高低ノ幅ハ種々ノ原因ニ由テ左右セラルルモ、大體米ノ保存費ニ一致セントスル傾向ノ存スルコトハ爭ハレナイ。米價補給案ハ米ノ保存者ニ對シテ一ヶ月十錢ノ割合ヲ以テ保存費ヲ賠償スルコトトシテアルガ、此額ハ今日實際ノ保存費ニ比スレハ半ハニモ達シナイ。假リニ補給契約ヲ結ンテ指定倉庫ニ米ヲ寄託スル者ニ對シテハ、全然倉敷料ヲ免除シテ政府力之ヲ負擔スルコトトシテモ、保存費ノ中重キヲ爲ス所ノ金利ト減量變質上ノ損失トハ、到底一ヶ月十錢ヲ以テ賠償スルヲ得ナイ。農民ハ一般ニ保存費ヲ輕視スルノ傾向アリトハ云ヘ、尙ホ多クノ場合ニ米價高低ノ幅カ二圓ニ達スルノ事實ヨリ推シテ考フレハ、彼等モ一ヶ月十錢ノ賠償ニ甘シテ米ヲ保存スルコトヲ欲シナイデアラウ。特ニ農民ノ

智識ノ進歩シ且ツ彼等ノ間ニ貯蓄機關ノ利用カ普及スルニ從フテ其保存費ノ打算カ鋭敏トナル。果シテ然ラハ最後マテ米ヲ保存スルモ尙ホ米價カ補給案ニ定ムル十五圓二十錢以上トナラサルヘシト考ヘラルルカ如キ年ニハ、人々政府ノ補給契約ニ満足シテ米ヲ保存スルヨリモ、寧ロ十四圓以下ノ相當ノ價ヲ以テ直チニ米ヲ賣放ツコトヲ得策トスルデアラウ。故ニ政府ニシテ飽クマテ米價ノ最低ヲ十四圓ニ維持セントスレハ、保存費ノ賠償額ヲ引上ケテ實際ノ費用ニ一致セシメテハナラヌ。

## 二

我米價動搖ノ弊害ノ甚シキハ一收穫年度内ニ於ケルモノヨリモ異レル年度ノ間ニ於ケル動搖デアアル。現ニ最近兩三年ノ間ニ二十四五圓マテ奔騰セル米價カ十圓近クニ暴落シテ一般經濟界ニ甚大ノ打撃ヲ加ヘツツアル。基本的食物ノ價格ニ此ノ如キ大動搖ノ生スルコトハ戰爭中ノ歐洲諸國ニモ見サル所デアルガ、其原因ハ單ニ收穫ノ豐凶ノ差ノ大ナルカ爲メノミデナク、又資本乏シク利子高キ爲メ國民カ豐年ノ米ヲ貯蓄シテ之ヲ凶年ニ繰越シ、其時間的分配ヲ適當ニ行フノ困難ナルカ爲メノミデモナク、米ノ取引ニ關係ヲ有スル豐民及取引所正米商等ノ商業機關ノ自然的調節作用ニ重大ナ缺點ノ存スルカ爲メナルコトハ曾テ論述シタ。又此缺

點アルカ爲メニ米價カ一旦ヒ騰貴又ハ下落ヲ初メルトキハ、必シモ其後ノ收穫ノ豐凶ニ係ハラス其騰落ノ勢ヲ不當ニ永ク繼續シ、之カ爲メ續テ來ル所ノ反動的騰落モ甚タ激烈トナツテ大ナル幅サノ動搖ヲ示スコトトナル世俗ニ高値三年低値三年ト稱スルハ不正確ナカラ我米價ニ此ノ如キ頑強ナル情力ノ存在スルコトヲ言ヒ現ハスモノデアルカ(經濟論叢第一卷第一號高田學士米ノ豐凶ト米價參照)此ノ如キ情力存在ノ理由ニ關シ、以前ノ諸論文ニ於ケル研究ニ對シテ少シク補足ヲ試ミタイ

貨物ノ賣買ニ付キ當事者双方ノ態度ノ強弱ニ由リ或程度マテハ相手方ニ暗示作用ヲ與ヘテ其價值觀念ヲ支配スルコトカ出來ル、從ツテ又或程度マテハ現實ニ貨物取引量ヲ増減スルコトナクシテ其價格ヲ騰落セシメルコトカアル。併シ著シク價格ヲ左右セントスレハ是非トモ貨物ノ需用又ハ供給量ノ増減ヲ來ササルヲ得ナイ。米ノ取引ニ於テモ當事者ノ態度ニ由リ收穫ノ豐凶ト不鈎合ニ強ク價格カ騰落スレハ其消費量ニ増減ヲ來タシ、以テ次ノ收穫年度ニ於ケル古米殘存量ニモ増減ヲ生シテ其米價ニ影響スルコトトナル。今マ米ノ取引ニ對スル農民ノ態度ヲ見ルニ、彼等ハ市場ニ關スル智識ヲ一層多ク有スル所ノ商工民ト異ツテ、其生産物ノ

價格カ一旦ヒ騰貴シ初ムレハ妄リニ其態度強硬トナルト同時ニ、一旦ヒ下落シ初ムレハ妄リニ意氣鎮沈スルノ弊カアル。其上米價ノ騰落ト收穫ノ豐凶トノ關係ニ付テハぐれでり、きんぐノ法則カ其儘ニ適用ヲ見ナイトハ云ヘ(前掲高田學士ノ統計的研究參照)收穫ノ増減歩合ニ比シテ價格騰落ノ歩合カ一層大ナルコトハ明カデアル。其結果農民カ米ヲ賣却シテ得ル所ノ貨幣收入ハ、不作ニ由テ米價ノ騰貴セル年ニハ平年ヨリモ増加シ、從ツテ其經濟的地位モ強固トナル故、次年度ノ收穫カ平作又ハ平作以上トナルモ、尙ホ取引上強硬ノ態度ヲ探テ米價ヲ騰貴セシメ、世俗ニ高値三年ト云フカ如キ狀態ヲ生セシメル。併シ乍ラ此ノ如キ過度ノ騰貴ハ收穫ニ對スル消費ノ歩合ヲ減シテ次年度ニ於ケル古米殘存ヲ増加スルノミナラス、收穫ニ不鈎合ナル高價カ二年モ繼續スルトキハ、農民ハ肥料購入耕地手入等ニ由リ生産ヲ擴張スルノ資力ヲ生スルト同時ニ、彼等ハ商工民ノ如ク市場ニ關スル智識ノ乏シキト、其資力ヲ他ノ事業ニ運用スルノ困難ナルトニ由リ、嚴密ナ經濟的打算ヲ行ハスシテ資力サヘ増加スレハ直チニ生産ノ擴張ヲ行フコトトナル。加之外國米ハ日本米ニ對シテ代用競争ノ能力ニ乏シトハ云ヘ、米價カ永シク騰貴スレハ其輸入高モ相當ニ増加スルガ、特ニ日本米ト同質ナル朝鮮米ハ近來著シク輸入力ヲ



増加シテ來タ。此ノ如ク米價カ不當ニ永ク高價ヲ維持スルトキハ、米ノ供給量モ意外ノ増加ヲ生シテ遂ニ米價暴落ト云フ激烈ナル反動ヲ生セサルヲ得ナイ。又米價ノ下落モ同様ニ過大ノ精力ヲ有スル故其反動タル騰貴モ激烈トナルコトハ自カラ明カラアル此等ノ點ハ既ニ大體ハ論シタ所テアルカ、茲ニハ米價カ過大ノ精力ヲ有スル一原因トシテ我國ノ小作料制度ニ付キ更ニ一言スル

農民ノ主ナル部分ヲ占ムル自作農及小作農ハ、資力薄弱ナル爲メ米價ノ高低ヲ問ハス收穫後速カニ所有米ノ大部分ヲ市場ニ賣放ツ。故ニ彼等ハ米價調節上大ナル勢力ヲ有スルヲ得ナイ然ルニ米田ノ約二分ノ一ハ小作ニ附セラレ、小作料ハ實物拂テアツテ、其大サハ平均收穫ノ二分ノ一ヲ少シク超過ノルト云ハレテ居ル。故ニ我國ノ産米ノ約四分ノ一ハ地主ノ所有ニ歸スルコトトナルガ地主ノ人口ハ少數ナルヨリ其自家消費量モ少ナク、從ツテ其ノ收納セル小作米ノ大部分カ市場ニ供給セララルコトトナル。地主階級カ此ノ如ク市場ニ供給スル量カ全體ノ市場供給量ニ對シテ如何ナル歩合ヲ占ムルヤト云フニ、此點ヲ明ニスル爲メニハ先ツ一般農民ノ自家用平均量ヲ知ラチハナラス。此點ハ曾テ論セシ如ク精確ナ材料ニ由テ推斷スルヲ得ナイガ、農民ハ麥其他ノ雜穀ヲ消費スルコト多キ故、其ノ米穀消費量

ハ全國ノ平均ヨリモ相當ニ低イテアヲウ。從ツテ全人口ニ對スル農家ノ割合ハ六割餘ニ當ルトシテモ、其米穀消費量ハ全產額ノ五割以上トハナルマイ。特ニ細小ノ小作人及兼業農民ノ如キハ其生産量ヲ以テ飯米トスルニ足ラス、不足額ニ付テハ米穀購買者トシテ市場ニ立ツノテアル。故ニ米產額ノ約二分ノ一ハ中央及地方ノ市場ニ賣出サルルモノト見テ大差ナシト信スルガ、左スレハ地主階級ノ市場供給量ハ全賣米ノ約半バニ達スルコトナリ、而モ彼等ハ經濟的地位ノ強固ナル爲メ市場ノ狀況ヲ見テ賣出シノ時期ヲ撰擇スルノ餘裕カアル。是レ地主階級カ米價ノ決定ニ付テ大勢力ヲ有スル所以テアリ、世人カ往々米價ノ高低ハ一ニ地主ノ態度ニ由テ定マルト云フノハ必シモ不當テナイ

米田ノ小作料ハ米納デアリ、且ツ定額デアル。故ニ分果小作ノ場合ノ如ク收穫ノ豐凶ニ由テ地主階級ノ小作米收納量ニ増減ヲ生シナイ。固ヨリ著シク不作ノ年ニハ幾分ノ小作料減額ノ行ハレルコトハ事實デアルガ、大體ヨリ見レハ地主ノ米穀所有量ハ多ク豐凶ニ影響セラレス年々略ホ一定シテ居ル。然ルニ米價騰落歩合ハ豐凶歩合ヨリモ大テアル以上ハ、凶年ニモ米穀所有高ニ別段ノ減少ヲ見サル地主階級カ米ノ賣却ニ由テ得ル所ノ貨幣收入ハ他ノ農民ニ比シテ特ニ著シク増加スヘク、

反對ニ豐年ニ於テモ米ノ所有量ヲ増加セサル地主階級ハ、米價ノ下落ニ由ツテ特ニ著シク其貨幣收入ノ減少ヲ來ササルヲ得ナイ。米價決定ニ付キ大勢力ヲ有スル地主階級カ此ノ如ク收穫ノ豐凶ニ伴フ所ノ米價ノ騰落ニ由テ特ニ著大ナル經濟的地位ノ強弱ヲ生スルコトハ、即チ其ノ米穀市場ニ於ケル取引態度ニ非常ナル強弱ノ差ヲ生スルコトナリ、其結果米價ノ騰落カ激烈トナリ、特ニ其騰落ノ情力カ過度ニ強クナルノテアル。此點ヨリ見ルニ小作料カ貨幣支拂トナルカ又ハ分果小作トナルナラハ、我米價騰落ノ狀態ニモ著シキ變化ヲ生スルコトナルテアラウ。併シ小作料制度ハ單ニ米價ニ及ホス影響ヨリ其價值ヲ斷定スヘキモノテナイコトハ勿論テアル。

少數ナル地主階級ヲ除キ、一般農家ハ收穫後速カニ産米ノ大部分ヲ賣放タテハナラス。故ニ米價ノ暴落ニ際シテ應急調節策ヲ行フコトトスレハ、是非トモ收穫後迅速ニ之ヲ實行セテハナラス。又通例農家ハ一年ノ取引ヲ決濟シテ舊正月ヲ迎ヘル爲メ十二月乃至一月ニ最も多ク米ヲ賣放ツコトナル故、一年度ノ米價モ此等ノ月ニ最低位ヲ示シテ其年度ノ米價進行ノ出發點トナル。然ルニ前ニ論セシ如ク我米價ニハ過大ノ情力ノ存在スルコトカ事實テアルトスレハ、十二月乃至一月ニ現

ハレタル最低價格カ如何ナル點マテ落込メルヤハ、其年度ニ於ケル爾後ノ米價ノ進行ニ大ナル影響ヲ有スルモノト認メ予ハナラヌ。此點ヨリ見テモ米價ニ對スル應急調節策ハ收穫後迅速ニ行ハテハナラヌ。今回ノ米價調節調査會ノ特別委員ヨリ提出セル應急調節策ノ中ノ地租納期繰下案ハ比較的世人ノ重要視スル所トナツテ居ルヤウテアル。地租納期ノ繰下カ果シテ何程ノ調節力ヲ有スルヤ、又米價調節ノ爲メニ租稅納期ヲ左右スルコトヲ認ムヘキハ問題テアルガ、若シ此策ヲ實行スルコトトスレハ第一期分ノ納期繰下カ最モ有效テアリ、其他ノ納期繰下ハ多數農民ノ救済上又米價暴落ノ矯正上效力ノ乏シイモノト云ハテハナラヌ

米價動搖ノ國民經濟一般及社會各階級ニ及ホス影響ニ付テハ曾テ論シタガ、茲ニハ後ノ點ニ付キ更ニ一言スル。先ツ地主階級ノ米ノ所有量ハ收穫ノ豐凶ニ由テ別段ノ差ヲ生シナイ。故ニ彼等ハ米價ノ高キヲ欲スルニ反シ、消費者ハ其ノ低キヲ欲スル點ニ於テ正反對ナリトハ云ヘ、米價動搖ノ成ルヘク少ナキコトヲ利益トスル點ニ於テハ兩者カ一致スル。我國ニハ他國ニ見ルカ如キ大々的の地主カ存在シナイトハ云ヘ、地主階級ハ概シテ富者階級ト云ヒ得ル。從ツテ彼等ハ米價動搖ニ堪ユルノ力カ多イ。只タ今日ノ如ク米價動搖カ極端ニ大トナツテハ、資力強大ナル大地主

ト雖トモ甚タシク苦痛ヲ感セネハナラス。地主ニ反シテ他ノ農民ハ勿論豊凶ニ由テ米ノ所有高ヲ増減スル。故ニ彼等ハ米價カ豊年ニハ相當ニ下落スル代リニ凶年ニハ相當ニ騰貴スルコトヲ利益トスル。若シ豊凶ニ係ハラス米價カ一定不動トナルナラハ、彼等ハ困難ニ陷ラネハナラス。特ニ經濟的地位ノ弱キ彼等ハ地主ト異ツテ或年ノ特別ノ利益ヲ貯蓄シテ他ノ年ノ損失ヲ補填シ、以テ其生活ヲ安固ナラシムルカ如キ餘力ヲ有シナイ故、彼等ノ爲メニハ米價カ豊凶ニ應シテ相當ニ騰落スルコトヲ必要トスル。此點ニ於テ彼等ノ利害ハ消費者階級ト一致セサルノミナラス、地主階級トモ一致スルヲ得ナイ。

此ノ如ク地主以外ノ一般農民ハ米價カ豊凶ニ應シテ騰落スルコトヲ利益トスルガ、彼等ノ要求スル騰落ノ程度ハ豊凶ノ歩合ヨリモ幾分カ大ナルコトヲ要スル何トナレハ自作農ノ自家消費ハ地主階級ニ比スレハ其所有米ニ對シ大ナル割合ヲ占ムルガ、此自家消費ニ付テハ豊凶ニ係ハラス其絶對量ヲ一定不動トスルコト、尙ホ富者階級ノ如クナルヲ得ナイコトハ勿論不能デアリ、相當ニ之ヲ伸縮スルコトハ已ムヲ得ナイガ、而モ之ヲ豊凶ノ歩合ホド多ク伸縮スルコトハ困難デアリ、從ツテ必要ノ自家消費ヲ差引キテ市場ニ賣出シ得ル殘額ハ豊凶ノ歩合ヨリモ一層多

ク増減スル。更ニ小作人階級ニ至テハ自作農ヨリモ更ニ收穫量ノ小ナルニ加ヘテ、其小作米ハ豐凶ヲ問ハス一定セルヨリ、其生産ノ中ヨリ小作料ト自家用米トヲ差引キテ市場ニ賣却シ得ル殘額ハ、自作農ニ比シテ豐凶ノ爲メニ遙カニ大ナル増減ヲ生スルコトトナル。故ニ此等小農民ヲシテ豐凶ニ係ハラス成ルヘク年々同額ノ貨幣收入ヲ得テ其生活ヲ安固ナラシムルカ爲メニハ、米價ノ騰落カ豐凶ノ歩合ヨリモ更ニ大ナルコトヲ必要トスルノテアル。只タ小農民ノ中ニハ兼業的ニ農業ヲ營ミ又ハ副業ヲ營ンテ生活ヲ立テ、其生産量ハ自家用ニ不足シテ米ヲ市場ニ購買セサルヲ得サル者モ相當ニ存在スル故、米價カ豐凶ニ由テ極端ニ騰落スルコトハ彼等全體ノ利益トモ一致シナイ。特ニ從來ハ米價ノ進行カ頑強ナ隋力ニ支配セラレ、其騰落カ收穫ノ豐凶ト一致シナイ場合カ少ナカラス發生スルノテアルガ、此事タル收入ノ不自然ノ増減ニ堪ユルノ力ナキ彼等ニ取ツテハ最モ重大ノ打撃テアル。是ニ由テ見ルモ我米價ニ過大ナ隋力ノ存在スルコトヲ矯正スルノ必要ナルハ益々明カテアル(未完)